

政務活動記録簿

会派名	太陽の会
事業名	議会会派合同視察(大田区と町田市)
実施日	平成30年8月6日～7日
参加議員	若林幹雄 山浦利通 高森公武 阿部貴代枝

1 東御市における課題と研修・調査の目的

大規模災害が叫ばれる気候変動が激しいこの頃に、災害が起きた時の議会対応をどのようにするかを先進地に学び、本市議会の参考にするため、東京都大田区の「議会における災害対応方針」について視察研修をした。地震等大規模災害が発生した時、議会災害対策設置時における対応方針を定め、議会の機能を維持することとした。そこでは、議会災害対策本部を設置し、組織構成員は、議長、副議長、交渉会派幹事長、議会運営委員長及び少数会派の代表とする。議会の対応としては、本会議中、委員会中と会議時間外の発生時の対応も明確にしている。また、次の日は町田市を視察。現在大きな課題として明らかになってきた引きこもりの先進地とされる町田市を訪問した。

2 経費

用途項目	経費の内容と内訳		金額 (円)
(該当項目に	バス借り上げ	実費額16830円×4人	67,320
	資料代	520円×4人	2,080
調査研究費	宿泊費	11,900円×4人	47,600
研修費	日当	4,400円×4人	17,600
広報費			
広聴費			
要請・陳情活動費			
会議費			
合計			134,600

※ 裏面に本事業に要した領収書その他支出を証する書類を添付のこと

実施日時	平成30年8月6日
視察場所及び部局等	東京都大田区議会
視察事項	議会の災害時の対応について、ICT教育の取り組みについて。
報告内容	<p>(1) 視察先概要</p> <p>大田区の人口は、728,686人、世帯数は、390,683世帯。面積は、60,83Km²。職員定数は4,135人。大田区の一般会計は歳入歳出278,776,473千円。議員現員数48人。常任委員会は5委員会。特別委員会は4委員会。平成8年に友好協定を結んでいる。</p> <p>(2) 視察事項について</p> <p>1、近年の大規模な災害が発生する中、議会としての対応をどうしているかを視察。議会における災害対応方針を設置し、その行動を明確化している。地震等大規模災害が発生した時、議会災害対策設置時における対応方針を定め、議会の機能を維持することとした。そこでは、議会災害対策本部を設置し、組織構成員は、議長、副議長、交渉会派幹事長、議会運営委員長及び少教会派の代表とする。議会の対応としては、本会議中、委員会中と会議時間外の発生時の対応も明確にしている。今までに具体的な課題は無いようだが、それぞれの議員がどのように情報を収集するかという議論があつて、議会として一元として情報の提供をしたらどうかという議論の中で災害対応方針ができた。議会として防災訓練をしている。議員との伝達手段として、PHF電話の設置や防災無線の議論があつた。2、ICT教育についての取り組みは、平成29年度、すべての小中学校に最新のICT危機を整備すると発表。事業概要としては、無線ラン環境の構築とICT機器の整備。ICT機器の活用による教育の質的向上。確かな学力の定着や児童生徒の情報活用能力の向上を図るものです。*「スポーツ健康都市おおた」の施設を視察。</p> <p>(3) 所感・市政に活かせること</p> <p>*議員間の情報伝達を一元化して、一括で市民に正しい情報を伝える手段をとるところは、本市も学ぶところである。また、議会の防災訓練をしているので、本市もいろいろなことを想定した訓練も必要であると感じた。*ICT教育機器の設置は、とても費用がかかるが、正しい情報教育をするためには、必要なことで、しかも最新機器を導入という姿勢に、大田区の教育に対する熱心さを感じた。本市も、情報教育のために、早く多くの機器の導入を図ってほしいと感じた。</p>

(視察先の写真等がある場合は添付)

実施日時	平成30年8月7日
視察場所及び部局等	東京都町田市
視察事項	引きこもり者支援体制推進事業について
報告内容	<p>(1) 視察先概要</p> <p>東京都の南端に位置。多摩川に沿い商業都市。人口は433,920人。面積は、71,80Km²。議員の定数は36人。常任委員会は、4委員会。議会で親子傍聴席がある。</p> <p>(2) 視察事項について</p> <p>ひきこもり者支援体制推進事業についてを視察。引きこもりは長期化して、しかも深刻化している。親からの相談が多く、本人に会えるには長期間かかる。2000年に、親の会を立ち上げ、本人の家以外での居場所づくりを立ち上げた。本人も保護者も高齢化してくるので、若いうちに対応する必要がある。民生委員などと、実態調査をした。また、引きこもりネットワークを立ち上げ、地域の包括的ネットワークを横のつながりになっていけばと考えている。引きこもり相談員を設置して、続いた相談体制ができるように図っている。課題としては分野がいろいろで、精神疾患や発達障害などや不登校やいじめなどが要因となっており、町田市内の小中学校の不登校は400名ぐらいの状況である。これが引きこもりにつながる懸念は充分だ。</p> <p>(3) 所感・市政に活かせること</p> <p>リーフレットを作り全戸に配布しているというが、引きこもりは難しい。対人関係を小さいうちから学ぶ、義務教育の時代の対応が非常に重要だが、その支援が児童たちにいきわたりにくいことも課題だと思う。地域での支援者の育成をと話されていたが、支援される前の段階での予防が重要。このことは、これからさらに大きな社会問題となる部分をはらんでいる。本市でも最重要課題として取り組むことが必要と考える。</p>

(視察先の写真等がある場合は添付)

政務活動記録簿

会派名	太陽の会
事業名	議会会派合同視察(新潟県十日町市)
実施日	平成30年8月23日
参加議員	若林幹雄 山浦利通 阿部貴代枝

1 東御市における課題と研修・調査の目的

地域活性化及び地域づくりの手段として認識されてきた東京芸術大学との地学連携事業については、平成27年から29年度の3ヶ年モデル委託事業として、御牧ふれあいの里づくり協議会において実施してきたが平成30年度からは地域が主体となって進めることを前提に、更なる地域活性化及び人材育成の推進を目的に地域が自立して運営できるよう補助金の交付を行うこととなった。については、大地の芸術祭として里山の魅力を世界に発信しようとしている新潟県の3年に1度開催する大地の芸術祭の取り組みの現地視察を行い、これまでの取り組みや実績、地元の反応又、今後の展望について参考とするために視察研修を行った。

2 経費

使途項目	経費の内容と内訳		金額 (円)
(該当項目に)	バス借上げ	実費額7022円×3人	21,066
	資料代	4184円×3人	12,552
調査研究費	日 当	2200×3人	6,600
研 修 費			
広 報 費			
広 聴 費			
要請・陳情活動費			
会 議 費			
合 計	13406×3人		40218

※ 裏面に本事業に要した領収書その他支出を証する書類を添付のこと

実施日時	平成30年8月23日
視察場所及び部局等	新潟県十日町市
視察事項	大地の芸術祭の実施状況
報告内容	<p>(1) 視察先概要</p> <p>十日町市役所で、3年に1回実施されている芸術祭の実施状況をスライドでお聞きする。大地の芸術祭の挑戦として、1、越後妻有と大地の芸術祭2、アートによる再発見3、大地の芸術祭がもたらしたもの4、第7回の作品の紹介(370ある)。来訪者は年々大きな伸びを示し、経済効果も大きく、アートに寄る再発見は、里山への魅力や食の文化にまで及ぶという。芸術祭をきっかけに、若者の流入を招き、お年寄りの笑顔が増えたという。地域の中に作品を置きたいということでそのその集落に課題があればそれにあつた作品ができ洗るそう。作品の維持管理もボランティアで行っている。</p> <p>(2) 視察事項について</p> <p>実際に実施しているヶ所を視察。1、絵稚児妻有里山現代美術館キナーレ、2、うぶすなの家、3、鉢&田島征三絵本と木の実の美術館、4、最後の教室を見学。どこの会場の作品も目を見張る展示で圧倒される。とても、わがまちの比ではないと、ここまでできる芸術祭に感服仕切り。このとてつもない規模を誇る実施で、観光客や若者の流入があると感じた。</p> <p>(3) 所感・市政に活かせること</p> <p>地域の人々を上手に取り組んでいる。このことによる再発見ができていることは、大いに学ぶところである。わが市の場合は、このように地域に根差した発見を知るところへは至っていない。なんとなく、こだわりを持っている人々の芸術祭になっている感が否めない。作品の策定過程で、自分たちが気が付かなかったものを見出して、地域の人々と一緒にやっているところに、維持管理などボランティアでできている感がある。東御市も一部の芸術家の招聘でなく、地域をもっと巻き込んで実行しなければ、天空の芸術祭が宙に浮き、長続きしないかもしれない。地元でどれくらい市民に理解されているか、一緒にやっていってくれるか、基本的なところから検討を必要としていないか。</p>

(視察先の写真等がある場合は添付)

政務活動記録簿

会派名	太陽の会
事業名	第45市町村議会議員研修会in長野
実施日	2018/11/12～13日
参加議員	若林幹雄 山浦利通 阿部貴代枝

1 東御市における課題と研修・調査の目的

東御市も、例を見ない少子高齢化による人口減少問題や、多くの自然災害が多発する中で、市会議員として多くの課題に向き合っている。それらに対応するためにどのように、政策に向き合い、政策立案など、どう対応していかなければならないか、いけるかなど、議員の資質向上や立案力を学ぶために研修会に出席した。

2 経費

使途項目	経費の内容と内訳		金額 (円)
(該当項目に○) 調査研究費 研 修 費 広 報 費 広 聴 費 要請・陳情活動費 会 議 費	受講料	30,000円×3人	90,000
	振替代金		648
	電車代	12日、行き田中～長野 950円×3人	2,850
		12日、帰り、長野～上田(新幹線、3人分)	4,320
		12日、帰り駐車料金(上田駅)	1,000
		13日、行き田中～長野950円×3人	2,850
		13日、帰り長野～田中950円×2人	1,900
		13日、帰り長野～滋野1,030円×1人	1,030
合 計		104,598	

※ 裏面に本事業に要した領収書その他支出を証する書類を添付のこと

3 実施概要 (視察箇所ごとに記載)

(No.1)

実施日時	2018/11/12~13日
研修場所	長野市大字南長野 JA長野県ビル
研修事項	第45回市町村議会議員研修会in長野
報告内容	<p>(1) 研修概要</p> <p>1日目 ①自治体は、どのような少子化対策を進めるべきか ②住民自治の根幹としての議会力、議員力の発揮へ</p> <p>2日目 ③災害への備えに何が必要か。 ④自治体アウトソーシングPFIと水道の民営化・広域化 ⑤介護保険・医療保険制度の現状と課題</p> <p>(2) 研修事項について</p> <p>①子どもに関するいろいろな制度や公共施設の維持管理など地域にどのようなになっているのか。教育費などの無償化や認定こども園、待機児童対策など、幅広く研修。今何をすべきかが投げかけられた。</p> <p>②飯綱町の元議長の話。、議会改革についての追認議会からの脱却、チーム議会として、政策力を高めた話など、すぐ、考え実践しなければと考えさせられた。</p> <p>③想像を絶する災害に対して、被害を少なくするための対策など、今でもすぐに検討していかなければいけない災害対策をどのように進めるか。また、大規模な災害が起こった後の対応など、どこでも起こりうる話で、時間を待たずに、考えていかなければならない</p> <p>④住民生活に重要な水道の民営化を自治体はどのように進めるべきか。水道法の改正から見る研修であった。</p> <p>⑤現在策定された地域医療構想が、これから住民にどのようなことが降りかかってくるか、地域包括ケアと言われながら、介護保険も医療費もうなぎ上りに上がっていく現状を研修した。</p> <p>(3) 所感・市政に活かせること</p> <p>・児童の養育問題を、家庭でばかりでなく、地域でも支えることが必要な時代</p>

・公共機関の建物の維持管理費はこれからどうなっていくのか。今の状態を維持することはできないが。今まで必要以上に公共施設が整備された付けがこれから大きくなる。

・飯網町元議長の議会改革は、是非、あって、話を聞きたいことが多かった。追認議会からの脱却は大きな課題だ。

・災害対策は、東御市は少ないということで、住民を巻き込んだ訓練や起きた後の対応など、もっと真剣に考えていかなければいけない。

・水道の民営化は、料金徴収や簡易の修理など、少しずつ動いているので、これから先、よい形で進むか、チェックが必要となる。

・高齢者の介護やいりよの問題は、少子高齢化の中で、どのくらいクローズアップされるかわからない。これからさらに、介護等で、社会の世話になっていく私たちは、健康寿命を延ばすことしかない。

(視察先の写真等がある場合は添付)